

| | | | |
|-------|--------------------|-----|------------|
| 授業科目名 | ターミナルケア論 (2300237) | | |
| 時間割名 | ターミナルケア論 (11205) | | |
| 時間割担当 | 守本とも子 | 山口求 | 田中和奈 藤田智恵子 |
| 実施期 | 後期 | 単位数 | 1 選択 |
| 曜日・時限 | 月・1 | | |

■授業の目標・概要

(概要) ターミナルについての概念、およびターミナル期にある対象へのケアの在り方について学ぶ。各ライフサイクルにおけるターミナルケアの意味を理解するとともにターミナルケアを実践する上での知識と技術を学ぶ。オムニバス方式で授業を構成し、各ライフサイクルにおける専門領域の教員による授業を展開することで、対象の個別性を踏まえたケアの在り方を理解する。また、看護者自身の死生観が確立できる基礎を養う。

■学習の到達目標

現代人の死の概念・定義・文化を学び終末期にある患者、その家族への看護について理解する。

■授業方法・形式

講義形式

■授業計画

(守本とも子/2回)

現代人における死の概念について学び、文化や国民性において死の概念や認識に相違点があることを理解する。また、ターミナルケアと医療倫理についてPOLST（生命維持治療の指示）、インフォームドコンセントを取り上げ、現代におけるターミナルケアの考え方や現況を理解することを目標とする。更には、在宅でターミナルを迎える人への援助の方法を学ぶ。特に在宅で療養生活をおくるターミナル期にある高齢者のQOLについて考察する。また、家族へのグリーフケアについて学び、最終回は全体のまとめとして担当する。

<葉山 有香/4回>

全人的苦痛（トータルペイン）について学修し、終末期にある患者の苦痛について理解し終末期にある患者に生じる症状として疼痛を取り上げ、疼痛のアセスメントおよびその緩和方法について学修する。また、終末期にある患者に生じる症状として疼痛を取り上げ、疼痛のアセスメントおよびその緩和方法について学修する。

(上本野唱子/2回)

「子どもの死」に直面した家族への援助の在り方について事例を挙げながら授業を展開し、家族にとって「子どもの死」がどのような意味を持つのか考察する。

■成績評価の基準

■成績評価の基準

定期試験（レポート）および授業態度、出席を評価します。

■準備学習・復習及び授業時間外の課題

振り返りレポートを課します。

■履修上のアドバイス及び留意点

■教材・教科書

テキストは使用せず授業のレジュメを配付します。

■参考書